

環境共生地域学特論実験 (2単位)

担当者氏名 山部能宜

◆学習・教育目標

Bioethics の概念を最初に導入した Potter の “Bioethics” を読み、この言葉の本来的な意味について考察する。近年この言葉は Potter の意図を離れて、さまざまな context で用いられるようになってきているが、この授業ではいま一度原点に戻って考えてみたい。それはまた、人文学と自然科学の関わりについて考察する機会ともなるであろう。受講生による報告と討論を中心に授業を進めていく予定である。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

生命倫理 _____ 環境倫理 _____

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	Bioethics の定義	Potter の考えた Bioethics の意義	テキストの熟読
2	Bioethics の定義 (続)	関係する概念の概説	テキストの熟読
3	人類の進歩	未来への展望	テキストの熟読
4	人類の進歩 (続)	進化について	テキストの熟読
5	社会と科学	秩序の追求	テキストの熟読
6	社会と科学 (続)	生命のメカニズム	テキストの熟読
7	知識の危険性	科学知識の誤用の危険性	テキストの熟読
8	未来についての議論	科学と為政者の関係	テキストの熟読
9	「混沌」	「混沌」に対する宗教的見地	テキストの熟読
10	「混沌」(続)	秩序の希求	テキストの熟読
11	個人と社会	現代社会における個人の役割	テキストの熟読
12	細胞の反応	環境変化に対する細胞の適応	テキストの熟読
13	細胞の反応 (続)	最適環境を求めて	テキストの熟読
14	人類の生存	人類の生き残りの方策をさぐる	テキストの熟読
15	人類の生存 (続)	共通の価値体系を求めて	テキストの熟読

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

Bioethics: Bridge to the Future/Van Rensselaer Potter/Prentice-Hall (1971)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

平常点 50%, レポート 50%

◆その他受講上の注意事項

生命倫理の原点について考えると同時に、英語の運用能力を高めることも目指したい。英語文献を積極的に読んで考えていく姿勢が重要である。